

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 1 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520182

研究課題名（和文） 長門本平家物語に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental research on The Tale of Heike, Nagato Version

研究代表者

小川 栄一（OGAWA EIITI）

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：70160744

研究成果の概要（和文）：平家物語諸本のうち部分的に延慶本より古い本文をもつ長門本の基礎的な研究を行い、『長門本平家物語自立語索引』と『平家物語長門本延慶本対照本文』を公刊した。両本本文の比較から「延慶本・長門本親本」の存在を想定できること、長門本諸本の中で最も古い赤間本の書写年代が 16 世紀末頃と推定されることを論じ、さらに両本の和歌および章段「経嶋」と「継信最期」、延慶本の風評に関する問題について一定の見解を示した。

研究成果の概要（英文）：We conducted fundamental research on *the Tale of Heike Nagato version* which has partially older texts than *the Enkyo version*. We issued *The Index of Self-sufficient words on the Tale of Heike Nagato version*, and *The Comparative Text of the Tale of Heike (Nagato version and Enkyo version)*. We presumed existence of "The parent version of the Enkyo and Nagato versions" based on a comparison of the texts of the two versions, and that *the Akama version* which is the oldest of all *Nagato versions* was transcribed at the end of the 16th century. Furthermore, we stated our views on the Japanese poetry in the two versions, on "The Kyonoshima Island" and "The death of Tsuginobu" chapters of two versions, and the problem about rumor in *the Enkyo version*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
20 年度	500,000	150,000	650,000
21 年度	300,000	90,000	390,000
22 年度	300,000	90,000	390,000
23 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：2901

キーワード：平家物語の成立 平家物語の諸本 長門本平家物語 延慶本平家物語

1. 研究開始当初の背景

平家物語には数多くの異本があり、諸本の分類や系統について多くの研究がなされてきた。その中でも延慶本が最も古い形態を伝えるという水原一の説が有力視されている

（『平家物語の形成』加藤中道館 昭和 46 年）。長門本は延慶本とは共通する本文が多く、両本はきわめて近い関係にあると目されているが、長門本の研究は延慶本ほど詳しくは進められていなかった。延慶本と長門本を子細に比較検討すると、長門本の本文の方が

延慶本よりも古いと認められる部分もあって、水原の延慶本古態説にも再考の余地がある。長門本の成立事情、延慶本との関係の究明のために長門本の語彙索引、延慶本との対照本文の作成など、長門本に関する基礎的な研究が必要とされていた。

2. 研究の目的

長門本と延慶本との関係、長門本の成立事情の究明を目的とする。長門本の信頼できるテキストとして、すでに麻原美子・小井土守敏・佐藤智広編『長門本平家物語』一～四(勉誠出版 平成16～18年)を刊行しているのを、これを底本にして自立語索引を作成する。延慶本との対照本文を作成する。これに基づいて、長門本の成立事情、言語年代等に関する研究、その他の発展的な研究を行う。

3. 研究の方法

本研究では、上記の目的を達成するために、以下の4項目を主たる目標とした。

- (1)『長門本平家物語自立語索引』の作成(平成20年度)
- (2)『平家物語長門本延慶本対照本文』の作成(平成21～22年度)
- (3)長門本の言語年代を明らかにする研究(平成21～23年度)
- (4)長門本と延慶本との成立上の関係を明らかにする研究(平成23年度)

(1)は長門本の自立語の検索を可能とする。これによって長門本の用語検索が容易となって研究の効率化とともに、語彙の全体的傾向を把握することが可能になる。

(2)は長門本と延慶本のテキストを対照させることによって、両本の成立関係を究明するための基礎資料となる。

(3)は現存する長門本諸本の中から赤間本、伊藤家本、国会貴重書本を選び、その音韻の状況を調べることによって、この三本の言語年代、書写年代を推定する。

(4)は本研究の最終的な目標であって、(1)(2)(3)の成果をふまえて究明する。

以上の基礎的研究を基にして、両本における和歌の異同、章段の記述、当時の風評など、文学的、語学的な課題に取り組む。

4. 研究成果

(1)について、平成20年度研究成果公開促進費の交付を受けて『長門本平家物語自立語索引』(〔図書〕①)を刊行した。この書は麻原美子・小井土守敏・佐藤智広編『長門本平家物語』一～四を底本にして、そのすべての自立語の所在を、底本の文字表記ごと一括して示したものである。本書から各語の所

在・用例を簡単に検索でき、語彙の全体的な傾向をつかむことも可能である。また本書は底本における表記を明示したことも大きな特徴である。これによって、本書が底本の漢字表記をいかに読んだかがわかり、読みの正しさを実証するのみならず、文字表記の研究にも大いに役立つ。本書は平家物語の文学的、語学的研究を発展させる資料である。

(2)について、平成22年度研究成果公開促進費の交付を受けて刊行した(〔図書〕②)。本書は長門本(前掲書)と延慶本(北原保雄・小川栄一編『延慶本平家物語本文篇上・下』(改訂再版 勉誠出版 平成11年4月)の本文を上下に対照させて提示することによって、本文相互の異同や出入りの状態を一目で把握できるようにしたものである。本書によって、長門本と延慶本との成立上の関係を明らかにする研究に役立つとともに、平家物語全般の成立を究明する基礎資料となる。さらに、本書では扱うことのできなかつた、両本で遠く離れた箇所が存在する対応記事・章段の本文対照表を作成した。(『平家物語長門本延慶本対照本文』対照表補遺)〔雑誌論文〕⑩)

(3)について、約70ある現存長門本平家物語諸本の中から最古の写しである「赤間本」、赤間本の忠実な写しといわれる伊藤家本、国会図書館貴重書本(元禄・宝永頃<1688～1711>書写。「国会本」と称す)の三本を選んで、その言語年代を研究した(〔雑誌論文〕①④)。具体的には、日本語史の上で中世から近世にかけて進行した才段長音の開合と四つ仮名の混同、二段活用的一段化の例数等を調べ、その傾向から赤間本は中世末期のキリシタン資料などとほぼ同時期とみなされ、林羅山『徒然草野槌』によって慶長7年(1602)には赤間本が存在したことが確認されるので、それより以前16世紀末であろうと推測される。しかし、石田拓也(昭和53年)の想定する阿弥陀寺の大火(永正16年(1519))以前からの存在とはいえそうにない。もしも、これ以前から存在していた本があったとすれば、それは現存する赤間本ではなくて、赤間本の親となる「原赤間本」とも呼ぶべき本であったかと推測される。

伊藤家本は赤間本よりも才段長音の開合において混同が多いが、大きく傾向が隔たるものではない。伊藤家本は赤間本の忠実な写しとみなされているので、その書写年代が赤間本よりも若干下ることは疑いない。

国会貴重書本については他本よりも、才段長音の開合、四つ仮名の混同が著しく多い。本書はすでに村上光徳(平成12年)によって元禄・宝永の頃の写しと推定されているが、今回これを裏付けることができた。ただし、四つ仮名の混同および二段活用的一段化については正用が圧倒的に多いので、これらは

元禄・宝永よりもさかのぼる時期の傾向であって、この親本にあった傾向と考えるべきであろう。

(4)について、延慶本・長門本の本文は、記述内容における共通部分と非共通部分に二分されている。この共通部分には以下の二つがある。

Aほぼ同文に近い形で本文が一致する部分
B表現内容は同じであるが、部分的に用語の違い、記述順序の違い、要約的表現・省略が認められる部分

Aは完全な書承性本文であり、Bは書承と著作が混淆している本文である。Aの本文の比較を通して、延慶本・長門本が兄弟関係にあることが確認できた。両本を産み出した親本に冠せられた「旧延慶本」という用語を廃して、「延慶本・長門本親本」略して「延・長親本」、または「想定延・長親本」という名称を提案する。〔雑誌論文〕③)

以上のほか、長門本および延慶本を資料とした文学的、語学的研究を行い、一定の成果を上げた。〔雑誌論文〕⑤⑥⑦⑧⑨)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- ①小川栄一「日本語史料としての長門本平家物語」(『武蔵大学人文学会雑誌』41-3・4 2010 424-456) 査読無
- ②小井土守敏「長門本『平家物語』校注ノート―井上九郎光盛の名乗りについて―」(『昭和学院国語国文』37 2009 1-5) 査読：無
- ③麻原美子「『延慶本・長門本親本』措定の試み―『平家物語長門本延慶本対照本文』を基軸として―」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 1-11) 査読無
- ④小川栄一「長門本平家物語の言語年代」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 13-20) 査読無
- ⑤佐藤智広「経嶋に関する一考察 ―長門本・延慶本の目指すもの―」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 21-26) 査読無
- ⑥小井土守敏「継信は誰の矢に倒れたのか―延慶本「継信最期」再考―」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 27-31) 査読無
- ⑦小川栄一「延慶本平家物語に表れた「風評」の表現」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 33-44) 査読無
- ⑧佐藤智広「『平家物語』の和歌片々 付、長門本延慶本和歌対照表」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 45-

49) 査読無

- ⑨佐藤智広「長門本延慶本和歌対照表」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 50-66) 査読無
- ⑩小川栄一「『平家物語長門本延慶本対照本文』対照表補遺」(『長門本平家物語に関する基礎的研究』所収 2012 67-247) 査読無

[学会発表](計0件)

[図書](計3件)

- ①小川栄一・麻原美子・大倉浩・佐藤智広・小井土守敏『長門本平家物語自立語索引』(勉誠出版 2009 1062 ページ)
- ②小川栄一・麻原美子・大倉浩・佐藤智広・小井土守敏『平家物語長門本延慶本対照本文』(勉誠出版 2011 1522 ページ)
- ③小川栄一・麻原美子・佐藤智広・小井土守敏『長門本平家物語に関する基礎的研究』(2012 247 ページ)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

小川 栄一 (OGAWA EIITI)
武蔵大学・人文学部・教授
研究者番号：70160744

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者

麻原 美子 (ASAHARA YOSHIKO)
日本女子大学・名誉教授
研究者番号：50060629
大倉 浩 (OKURA HIROSHI)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：60176849
佐藤 智広 (SATOU TOMOHIRO)
昭和学院短期大学・教授
研究者番号：50289857
小井土 守敏 (KOIDO MORITOSHI)
大妻女子大学・文学部・准教授
研究者番号：30352660